

基本

文法のまとめ

助動詞・敬語

名前

組番

標準時間20分

100点

① 〈助動詞〉 次の各文を(例)にならって単語に分け、助動詞に——線を付けなさい。(各完答、4点×5)

- (例) ぼくは友達と話をしました。(1)「られる」は尊敬・「られる」の終止形。
- (1) 先生がこちらへ来られる。(2)「せ」は使役・「せる」の連用形。「た」は過去・「た」の終止形。「そうだ」は伝聞・「そうだ」の終止形。
- (2) 薬を飲ませ、熱を測ったそうだ。(3)「た」は過去・「た」の連体形。「です」は丁寧な断定・「です」の終止形。
- (3) これは君の書いた作文ですね。(4)「ようだ」は推定・「ようだ」の終止形。
- (4) ようやく試合が始まるようだ。(5)「ない」は否定(打ち消し)・「ない」の終止形。「だ」は断定・「だ」の終止形。
- (5) 彼がもう登らないと言うのは、この山だ。

確認しよう

助動詞は活用する付属語。助動詞だけで文節を作ることはなく、自立語の後に付き、いっしょに文節を作る。

② 〈助動詞「れる」「られる」〉 次の各文の、——線の助動詞「れる」「られる」の意味を後から選び、記号で答えなさい。(5点×4)

- (1) このアルバムを開くと、昔のことが思い出される。(1) イ ウ
- (2) 目覚まし時計がなくても、ちゃんと起きられる。(2) エ ア
- (3) もうすぐお客様が来られる。(3) エ ア
- (4) あの野球選手は、みんなに好かれる人気者だ。(4) ウ ア
- ア 受け身 イ 自発 ウ 可能 エ 尊敬

確認しよう

○助動詞「れる」「られる」の四つの意味
「受け身」…「〜に〜される」の意味。
「自発」…「自然に〜する」の意味。
「可能」…「〜することができる」の意味。
「尊敬」…「お〜になる」の意味。

③ 〈助動詞の意味〉 次の各文の、——線部の助動詞の意味を後から選び、記号で答えなさい。(2点×10)

- (1) さあ、みんなでいっしょに公園に行こう。(1)の「う」は誘っているので「勧誘」。
- (2) 明日は早めに学校に行こうと思う。(2)の「う」は話し手の決意なので「意志」。
- (3) きっと明日は晴れるだろう。(3)の「う」は推し量った言い方なので「推量」。
- (4) 昨日は雨が降った。(4)の「た」は昨日の出来事なので「過去」。
- (5) 曲がりくねった道を歩く。(5)の「た」は「〜ている」と言いかえることができるので「存続」。
- (6) 今、ようやく作文を書き終えた。(6)の「た」は「今、〜し終わったところ」の意味なので完了。
- (7) 明日は雨が降りそうだ。(7)の「そうだ」は「〜という様子に見える」の意味なので「様態」。(連用形に付く)
- (8) 明日は晴れるそうだ。(8)の「そうだ」は「〜と聞いている」の意味なので「伝聞」。(終止形に付く)
- (9) 弟にも試験を受けさせる。(9)の「させる」は「人に〜させる」の意味なので「使役」。
- (10) 歌がうまくて、まるで歌手のようだ。(10)の「ようだ」は「まるで〜のようだ」と例えているので「比喻」。
- ア 使役 イ 勧誘 ウ 比喻 エ 様態 オ 推量
カ 完了 キ 存続 ク 意志 ケ 伝聞 コ 過去

④ 〈助動詞「ない」〉 次の各文の()に当てはまるように、助動詞「ない」を活用させなさい。(4点×5)

- (1) 君だって、そんなところには行きたく()う。
なかる (1) なく (2)
- (2) 明日からはもう、来()ていい。
なかつ (3) ない (4)
- (3) 友達に誘われたが、行か()た。
なけれ (5)
- (4) 明日の試合には、わたしは出場し()。
なけれ (5)
- (5) ご飯を食べ()ば、元気になるよ。
なけれ (5)

⑤ 〈敬語〉 次の語を、()の指示に従って敬語に直しなさい。(5点×4)

- (1) 食べる (尊敬語に直す) (例) 召し上がる
- (2) 来る (尊敬語に直す) (例) いらっしゃる
- (3) 見る (謙譲語に直す) (例) 拝見する
- (4) 言う (謙譲語に直す) (例) 申し上げます(申す)
- (1)「食べられる」、(2)「おいでになる」「来られる」などでも正解。尊敬語は相手を敬ういい方。謙譲語はへりくだったいい方。

① 〈助動詞〉 次の各文の中から、助動詞をそのままの形で、すべて抜き出して書きなさい。

(各完答、5点×4)

- (1) 水を飲みたいが、我慢しよう。 (1)「たい」は希望、「よう」は意志。 たい・よう (1)
- (2) 妹にピアノの練習をさせます。 (2)「せ(せる)」は使役、「ます」は丁寧。 せ・ます (2)
- (3) これが審査員にほめられた作品だ。 られ・た・だ (3)
- (4) 彼は、もう何も言うまいと思っっているようだ。 まい・ようだ (4)

② 〈助動詞「せる」「させる」〉 次の各文の()に当てはまるように、「せる」か「させる」を活用させなさい。(5点×4)

- (1) 赤ちゃんにミルクを飲ま()てください。 (1)「せる」の連用形。 せ (1)
- (2) 自分自身で決め()ば、責任感をもつだろう。 (2)「させる」の仮定形。 させれ (2)
- (3) 彼を来()ことは、おそらく不可能だろう。 (3)「させる」の連体形。 させる (3)
- (4) このグループは、だれにも使わ()ない。 (4)「せる」の未然形。 せ (4)

③ 〈助動詞「れる」「られる」〉 次の各文の()に当てはまるように、「れる」か「られる」を活用させなさい。(4点×5)

- (1) 去年のことが思い出さ()記事だね。 (1)「れる」の連体形。 れる (1)
- (2) この投手が打た()ば、勝敗は決まってしまう。 (2)「れる」の仮定形。 れれ (2)
- (3) ケーキなら、何個でも食べ()。 (3)「られる」の終止形。 られる (3)
- (4) 和尚さんに「滝に打た()。」と命じられる。 (4)「れる」の命令形。 れろ(れよ) (4)
- (5) 美しい景色が見()ので、多くの人が訪れる。 (5)「られる」の連体形。 られる (5)

④ 〈助動詞の意味・用法〉 次の各文の()線の語と、意味・用法が同じものを後から選び、記号で答えなさい。(5点×4)

- (1) 明日までは、雨は降らないだろう。 (1)否定(打ち消し)の助動詞「ない」。 ウ (1)
- ア 休んでいるひまはない。 イ (2)
- ウ このことはだれも知らない。 エ (2)
- エ おさない子どもが立っていた。 ウ (2)
- (2) これはわたしのノートだ。 (2)断定の助動詞「だ」。 エ (3)
- ア くじらは動物の間だ。 イ (3)
- イ 紅葉があざやかだ。 エ (3)
- ウ 笑顔がまるで太陽のようだ。 エ (3)
- エ おいしい紅茶を飲んだ。 ウ (3)
- (3) ボートが沖に流される。 (3)受け身の助動詞「れる」。 イ (4)
- ア もうすぐ家に帰れる。 イ (4)
- イ もうすぐ日が暮れる。 エ (4)
- エ 先生に注意される。 ウ (4)
- ウ 先生が話される。 エ (4)
- エ 先生に注意される。 ウ (4)
- (4) 今度の日曜日に、そうじをしようと思う。 (4)意志の助動詞「よう」。 ア (4)
- ア 冬のような寒さだ。 イ (4)
- イ 明日の朝は、早く起きよう。 ウ (4)
- ウ もう探しようがない。 エ (4)
- エ ここにはだれもないようだ。 ウ (4)

確認しよう

助詞と同じように、助動詞の意味・用法の識別問題もよく出題される。
 ・まず、品詞を確認しよう
 ・次に、文の中でどのような意味で使われているかを確認しよう。

⑤ 〈敬語〉 次の各文の()線の部分を、正しい敬語に直しなさい。(5点×4)

- (1) 先生がわたしに本をさしあげる。 (例) くださる (1)
- (2) 先生がお撮りになった写真を、母がご覧になる。 (例) 拝見する (2)
- (3) きょうの午後、先生がわたしの家へ参ります。 (例) いただき (3)
- (4) それでは遠慮せずに召し上がります。 (例) いらっしやい (4)

確認しよう

先生などの目上の人の動作には尊敬語を、自分や家族などの自分の側の人の動作には謙譲語をそれぞれ使う。

- (1) 「くれる」の尊敬語に直す。 (例) くださる (1)
- (2) 「見る」の謙譲語に直す。 (例) 拝見する (2)
- (3) 「来る」の尊敬語を活用させる。 (例) いただき (3)
- (4) 「食べる」の謙譲語を活用させる。 (例) いらっしやい (4)